

○令和元年度における御嵩町地球温暖化防止対策実行計画における点検結果について

項目	基準年度（平成28年度）		対象年度（令和元年度）		比較増減	
	使用量（ℓ）	CO2排出量（kg-CO2/年）	使用量（ℓ）	CO2排出量（kg-CO2/年）	使用量（ℓ）	CO2排出量（kg-CO2/年）
公用車（ガソリン）	31,216.87	72,423.14	29,221.70	67,794.34	-1,995.17	-4,628.80
公用車（軽油）	3,555.12	9,172.21	3,287.90	8,482.78	-267.22	-689.43
通勤車（ガソリン）	36,300.00	84,215.29	37,060.05	85,974.46	760.05	1,759.17
通勤車（軽油）	438.00	1,128.75	499.44	1,288.56	61.44	159.81
灯油	9,791.52	24,380.88	7,559.73	18,823.73	-2,231.79	-5,557.15
A重油	39,300.00	106,503.00	34,800.00	94,308.00	-4,500.00	-12,195.00

項目	使用量（kwh）	CO2排出量（kg-CO2/年）	使用量（kwh）	CO2排出量（kg-CO2/年）	使用量（kwh）	CO2排出量（kg-CO2/年）
電気	1,120,127.00	513,316.21	1,086,148.00	466,499.30	-33,979.00	-46,816.91

	基準年度（平成28年度）	対象年度（平成30年度）	増減		対基準年削減率
CO2排出量合計	811,139.48	743,171.17	-67,968.31		8.38%

【令和元年度におけるCO2の排出状況】

基準年度である平成28年度は、全国的に冬季の気温が低く、気象庁の発表では西日本は32年ぶりの寒い冬であったと発表され、また、対象年度である令和元年度は、東日本以西では冬の平均気温がかなり高く、特に沖縄・奄美は記録的な暖冬であったと発表されました。そのため、冬季における暖房のための電気、灯油、A重油の使用量の差がCO2の排出量の削減に大きく影響したとみられます。

また、電気使用におけるCO2の排出係数が0.454～0.497から0.423～0.476と改善していることもCO2の削減要因となりました。

一方、公用車の運用においては、電車を利用した出張や相乗り出張の推進により、一般車の使用の抑制は進んでいることや、初療の入れ替えにより燃費が向上したことが燃料使用量の減少に寄与したと思われます。

通勤車両については、職員数が若干増加していることが、燃料使用量に影響したものと考えられます。